

Q. ヒブワクチン・子宮頸がんワクチン接種費用の公費負担を

Q. 全国学力・学習状況調査の実施について



樋坂 里子 議員

ヒブワクチン接種の助成について

質問 ヒブワクチンはおよそ3万円と、子育て世帯に負担が大きい。町として接種費用の助成をどのように考えるか。

町長 町内三師会の医師と相談しながら、保護者負担軽減について検討した。近隣でワクチン接種の実施は砂川市立病院と滝川市立病院だけ。日本ではワクチン輸入量が少なく、国内すべての医療機関まで行き渡らず制限されている。任意接種も2〜3カ月待ちで接種している状況。

また、生後2カ月から7カ月の間に4回、7カ月から12

カ月未満で3回の接種が効果的であるが、その間にポリオやBCGの法定接種が義務付けられており、小さな子どもにとって大変な負担である。平成21年度は、道内で7町1村で実施をしているが、いずれも直営の診療所を持っている町村である。国は、平成22年度に輸出国フランスのワクチン社と協議しながら輸入量を増やしていくとしており、我が町としては今後の流れを見守りながら検討したい。

用語解説 ⅡヒブとはⅡヒブという細菌は、主に5歳未満の子どもが感染するといわれ、重症化すると髄膜炎、喉頭蓋炎、菌血症を引きおこす。日本では、毎年600人の子どもがヒブに感染し、100人程度が後遺症を残し、20人から30人が死亡している。

子宮頸がんワクチン接種に助成を

質問 子宮頸がん罹患者が20代から30代の女性に急増して

いるので、中学生を対象としたワクチン接種を行い、その費用を助成してはどうか。

町長 子宮頸がんは、「予防できる唯一のがん」といわれ、ワクチン接種による予防が期待されている。ワクチン接種による予防効果は約70%。接種費用は3回で4万5千円程度。全国では10市区町で11歳から14歳女児のワクチン接種に全額、または半額助成を行っている。近隣市町村では、平成22年度から幌加内町が全額助成すると聞いている。しかし、思春期を迎える女児が正しい性知識、女性としての成長や健康について、理解できるか心配な面も多く、現状は任意接種となっており、今後、国の動向を見極めつつ対応したい。

全国学力・学習状況調査の実施について

質問 平成22年度から抽出方式に変更され、本町は調査対象とならないにもかかわらず調査を実施することとした。

調査費用はどのように執行されるのか。

教育長 今回の抽出校約30%は、全額国の予算で対応することとなっている。抽出校以外で希望する市町村に対しては、北海道が全額負担する。本町は今回道費負担で行うが、道からの支援がなくても町費負担で実施しようと考えていた。本調査は、全国的な状況との関係から自らの教育の結果を把握し、改善を図ることを目的として、学校では結果を基に、教育指導や学習状況の改善に努めている。どの分野が苦手で、どこを重視して指導していけば良いのかを推し量る最善の機会であると考えている。

わかる授業の具体的な方針について

質問 教育行政執行方針に「わかる授業を追求してまいります」とあるが、具体的な方針はあるのか。